

## 平成 27 年度入学式 校長式辞

平成 27 年 4 月 7 日  
東明館中学校・高等学校  
校長 小畠 敏夫

若葉萌え、春の躍動を感じる今日の良き日に、平成 27 年度東明館中学校・高等学校入学式を挙行いたしましたところ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、また保護者のご列席をいただき、新入生を迎えることができましたことは、教職員の等しく喜びとするところであり、高壇からではあります、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

中学生 41 名、高校生 92 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。前途に大きな希望を抱いて、今、中学校・高等学校のスタートラインに立っている皆さんへ、私は、まずこの俳句を送ります。

「窓あけて窓いっぱい春」。 「窓あけて窓いっぱい春」。

これは種田山頭火の作品です。窓を開け、吸い込む春の風は心地よい。なぜかわくわくもする。新入生の皆さんの今の気持ちをそのまま表現している俳句ではないでしょうか。新たな期待と決意を胸に、皆さんには、闘志満々、有意義な中学・高校生活を送っていただきたいと、切に願うものであります。

さて、本校の校名、東明館は、対馬藩田代領の藩校名をもって設立されました。藩校東明館は、教育の機会をあらゆる人に与え、一人ひとりの意志や個性の尊重を教育理念とした広瀬淡窓の咸宜園の学風を継承したものです。江戸時代としても先進的・画期的なこの理念をもとに、本校は時代の進展の原動力となる社会有用の人材の育成を期して設立された学校です。

新入生の皆さん、晴れて入学されたこの東明館中学校・高等学校は、これから、大人への道を歩み始めようとする皆さんにとって、生きる基盤づくりを行う場であります。中学・高校時代の過ごし方が、その後の人生の方向性を決めると言っても過言ではないでしょう。人間的な成長と、思考力の習得という両面にわたって、中学・高校時代は最も重要な時期であります。このスタートにあたり、私から皆さんに望むことが三つあります。

その第一は、「自由」と「責任」のもと、自律した中学・高校生活を送れるようになって欲しいということです。作家、バーナード・ショウは、「自由とは責任のことだ。だから人は自由を恐れる」と言葉を残しています。

中学・高校に入学すると、自分の行動を、自分の意志によって選択できる自由は、今ま

で以上に広がります。それに伴い、責任も大きく課せられるのは、当然のことでしょう。与えられる自由をどのように自分なりに生かしていくのか、自らの成長のために自由を活用するのか、それとも気ままに振る舞い、安逸にふけるために「自由」を利用するのか、皆さんに課せられた責任として、このことがこれからの具体的な場面で、日々問われていきます。束縛のない自由を満喫している間に、自堕落な生活を無意識の内に送ってしまい、気がついた時には中学・高校生活が終わっていた、というのでは余りにも残念です。自分の長所と短所を自覚し、自分らしさを伸ばすための自己の律し方を、中学・高校という舞台を通して身につけて下さい。責任を伴う自由のあるところには、自ずと規律と秩序が自発します。自律的学習者・生活者として自己を確立してください。

第二に、「意志あるところ道あり」ということです。自らの進路、実際に進みたい道に進むためには「思い」と「行い」が重要となりますが、「思い」だけでも、「行い」だけでも足りません。「思い」と「行い」が一つの方向に向かって発揮されなくては、夢や目標の実現は難しいでしょう。また、夢が厳しい現実を運んでくることもあります。夢の実現に向けて、高い目標をもち続け、その夢を実現させる過程での、失敗や挫折の可能性も覚悟して、着実に努力を積み重ねることが大切です。自らの夢に胸をおどらせ、その実現に向けて一生懸命、意欲的に活動する、それが夢をもって生きている青春のあかしです。

私たちは、前向きに充実した生活を送ることを通して、新たなエネルギーを生み出すことができ、新しい自分に変わることもできます。夢を見つけることも、新しい自分に変わることも、毎日の生活を豊かで、充実したものにするとところから、まず始まります。

新入生の皆さん一人ひとりには、優れた個性を有し、鍛えれば大いに伸びていく能力を備えています。子どもから大人へ脱皮する青年期にこそ、この可能性に挑戦し、「まだ見ぬ我」を見出し、人間としての輝きを、増して行ってください。私たちにとって何が本質的なことなのか、何が大切なことなのかを見極め、高い視点に立って、ものごとを判断できる人へと、成長して行ってください。先行き不透明だと言われる今の社会情勢だからこそ、自らの哲学をもって将来を展望し、企画し、皆さん一人ひとりが、夢と生き甲斐をもつ状況を創り出すことが求められています。

第三に国際社会で活躍する人間としての素養を身につけよ、世界に通用する18歳をめざせ、ということです。変化する国際社会では、柔軟に対応し、生き抜くことのできる人間の資質の育成が今、強く望まれています。厳しい環境や逆境の中でもくじけないで、柔軟に生きていくためには、学習を怠らず、絶えず進化していくことも求められています。

今日、私たちの社会は、国際化、情報化、科学技術の進展、環境問題への関心の高まり、高齢化・少子化など、様々な面での変化が急速に進んでいます。とりわけ、天然資源に恵まれない狭い国土に、多くの人口と生産力を擁する日本は、環境・エネルギー、資源の欠

乏、少子高齢化などは、他の国が解決したことのない課題を、先駆的に抱えています。このような厳しい環境を乗り越えていくために、大切にしてほしいことがあります。

それは、周囲に対する疑問や、答えの見出せない課題を曖昧にしたり、先送りするのではなく、それを考え続けることです。むしろ疑問に思う過程に、光るものが隠れているかもしれません。すぐ答を見出すことができない課題に対してもじっくりと向き合い、耐える力こそが、今求められているのかもしれませんが。言いかえれば、それは自由な発想で、難題を解決する知恵を出す力、投げ出さずに努力を続ける力ではないでしょうか。

しかも立ち止まって考えるのではなく、歩みながら考えるということです。絶えず問題意識をもち、今できることを着実にやりながらも、周囲の人たちと交流し議論することで、課題が整理され、さらに考え方が磨かれ、やがて豊かな創造性すら、生まれてくるでしょう。疑問は疑問として、大切に暖めておき、時間をかけてそれを解決する材料を探し、知識を身につけていくことを、ぜひ中学・高校時代に学んでください。世界に通用する18歳、それは、多様性に対する感性が豊かで、普遍性への探求心が旺盛、日本の文化や社会について理解するアイデンティティを有する青年と言えるでしょう。

さて、本校は平成27年度より文部科学省よりスーパーグローバルハイスクールのアソシエイト校に指定されました。この制度は、高等学校におけるグローバル・リーダー育成に貢献する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。目指すべきグローバル人物像を設定し、国際化を進める国内外の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題、ビジネス課題をテーマに総合的な学習、探究的な学習を行って、皆さん自身の目で見聞を広げ、挑戦することが求められます。

新入生の皆さんは、大きな期待と希望をもって本校へ入学しました。自己の能力や個性をどのように磨き、伸ばすかは自分自身の努力次第なのであります。生徒の皆さんは、「学校が何をしてくれるか」を望む前に、「私はこの学校をどのように活用しようか」と考えてください。この姿勢を持ち続ける限り、教職員は皆さんの期待に応じて、力いっぱい援助を約束するものであります。新入生の皆さんは、本日の入学式の感動を大切に、今日からはじまる本校での中学・高校生活を通して、たくましく成長して行ってください。

結びになりましたが、新入生の保護者の皆様、お子様のご入学を心からお祝い申し上げます。私ども教職員は、高い理念のもと、全力を尽くして生徒一人ひとりの教育に専念する所存であります。中学・高校時代は、少年から青年へと移行する多感な世代であり、成長と発達の変化が激しい時でもあります。一方では、子供から大人へ近づく歩みの途中で、時には不安な発達を示すときもありません。保護者の皆様におかれましても、どうか生徒の歩む姿や努力の足跡を見つめ、時には温かく励まし、時には毅然とした態度で見守っていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、ご多忙の中、ご臨席いただき、新入生を激励くださいましたご来賓の皆様、本当にありがとうございました。今後とも、本校の発展のためにご指導、ご鞭撻をいただくとともに、ご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年度東明館中学校・高等学校入学式を準備し支えていただいたすべての方に感謝し、式辞といたします。